

東京大学生産技術研究所 正員 岡本 幹三

振動台の上に木箱をおき砂を水平に
 攤充してその表面に載荷板をおき斜に
 荷重を加えた。振動台を水平に振動せ
 しめると傾斜角がかなる時は載荷板は
 うりこみ、傾斜角が大なる時は載荷板
 は滑動する。前者の場合について載荷
 重と破壊をおさすときの振動の強さの
 関係を実験的に調べた。その結果載荷
 重の大小は振動加速度によつてさま
 ざらなことがわかった。実験は乾燥砂と水
 で飽和せる砂とについて、また載荷重
 の合力が載荷板の中央にある場合と偏
 心せる場合とについて行った。実験(1)

は装置一致、(2)は乾燥砂
 の滑り破壊、(3)は飽和せ
 る砂の滑り破壊を示して
 いる。

実験結果については講義
 会でわかる。

本研究には文部省科学研
 究費(総合研究費)の一
 部も支出した。

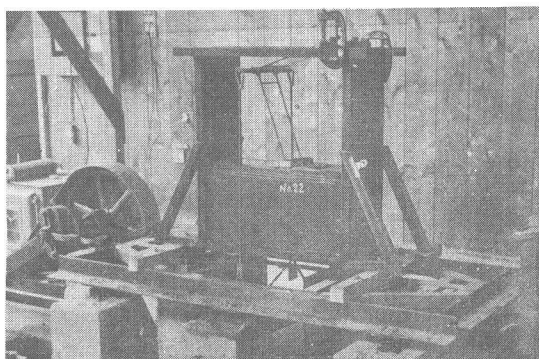


図-1

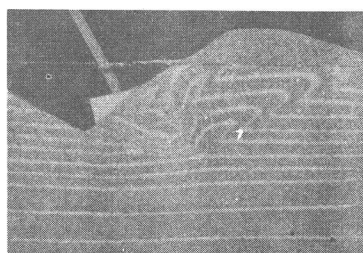


図-2

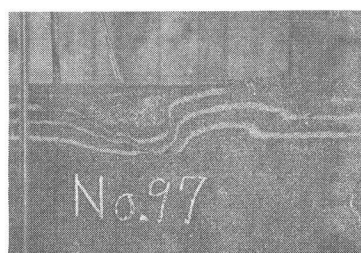


図-3